

〔科目名〕 会計学基礎論 b (経済学科)				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基礎科目	
〔担当者〕 紫関 正博 Shiseki Masahiro			〔オフィス・アワー〕 時間:授業の開始時に提示 場所:研究室(512)			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 <p>会計とは何か。皆さんの中には、会計といえば、お店での代金の支払い、あるいはそのお店が行っている簿記(複式簿記)をイメージする人が多いかもしれない。たしかに、会計には、それぞれの企業が日常行う会計実務(個別主体の会計)の側面がある。企業は会計を用いて、企業活動による財務情報を作成している。他方で、会計は、個々の企業の会計実務の他に、現代の資本主義社会の根底を支えている社会制度としての側面を持っている。それゆえに、会計が社会に対してどのような役割を果たしているのかを考えることも重要である。会計は、我々を取り巻いている経済現象を、会計文書上に「用語」と「数値」(金額)を使って映し出そうとするメカニズムである。</p> <p>しかしながら、会計は、あたかも鏡のように経済現象を会計文書上に映し出すものではない。会計は、一定の規則に従って、会計自体の計算構造の論理を用いて利益を算定することに使命がある。会計は、こうして算定した利益の大きさによって決定される税・配当・公共料金などの経済現象を合意化する社会的・制度的な役割を担っている。会計は、社会制度であることから、企業が外部に報告する会計情報は、会計規則や法律、会計理論に基づいたものでなければならない。</p> <p>「会計学基礎論 b」では、企業が会計情報を作成する際に必要な簿記(複式簿記)と基礎的な会計理論の他に、社会的・制度的な仕組みとしての会計を学習する。企業の会計情報の作成方法(複式簿記)の学習とともに、企業が公表する会計文書に対する理解力を養い、「会計とは何か」を意識的に考える時間としたい。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
<p>・他の科目との関連付け</p> <p>この科目は、企業などの組織を対象としていることから、特に「経営学基礎論」と関連がある。また、会計情報を対象としていることから、簿記(商業簿記や工業簿記)と他の会計関連科目(財務会計論Ⅰ・Ⅱ、財務分析Ⅰ・Ⅱ、財務管理など)と不可分の関係にある。「会計学基礎論 b」での学習を活かして、日商簿記検定試験やビジネス会計検定試験などの簿記と会計に関する資格取得にも積極的にチャレンジしてほしい。</p> <p>・学ぶ必要性と学ぶことの意義</p> <p>財務諸表を作成し、理解するためには、はじめに簿記(複式簿記)の学習が必要である。同時に、会計の「用語」の専門的意味の理解も不可欠である。最近では、多くの企業において、財務諸表を理解し、会計情報を読み解く力が重視されてきている。企業をはじめとする組織で活躍する人々は、会計の専門的知識を身に付け、そのスキルを磨くことが一層重要となっている。「会計学基礎論 b」は、こうした専門的な会計知識の基礎を確立するための科目である。</p>							
〔科目の到達目標〕							
<p>(中間目標) 日商簿記検定試験3級レベルの要点を理解し、仕訳をはじめとする簿記の基礎を身に付ける。</p> <p>(最終目標) 企業が作成する会計情報を理解する力を養い、社会的・制度的な仕組みとしての会計を学び、「会計とは何か」を学生諸君が積極的に考え、それを意識して考えることも目標とする。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○						○	

<p><b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b></p> <p>声が聞こえづらいことがないように、マイクの音量を調整し、明瞭に伝えるに心掛けます。また、見づらいということのないように、字の大きさにも気をつけて授業を行います。</p>																					
<p><b>〔教科書〕</b></p> <p>・鈴木義夫・千葉修身 著『会計研究入門：“会計はお化けだ！”』, 森山書店, 2015 年。</p>																					
<p><b>〔指定図書〕</b></p> <p>・鈴木一道 編著『会計学 はじめの一步(第 2 版)』, 中央経済社, 2020 年。</p>																					
<p><b>〔参考書〕</b></p> <p>・日本大学会計学研究室 編『はじめての会計学(第 8 版)』, 森山書店, 2025 年。  ・田口聡志・廣瀬喜貴・澤井康毅・木村太一・澤田雄介『簿記論 15 講』, 新世社, 2025 年。  ・渡部裕亘・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義 3級 商業簿記(2025 年度版)』, 中央経済社, 2025 年。  (※新版[2026 年度版]が出版された場合は, 新版[2026 年度版]を参考書とします。)</p>																					
<p><b>〔前提科目〕</b></p> <p>・前提科目はなし。積極的に, 会計および簿記(複式簿記)の学習をしてほしい。</p>																					
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>・期末試験の他に, 授業中に小テストを数回(2~3 回程度を予定)行う。<u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u>評価は, 小テスト(計 30%), 期末試験(70%)によって行う。なお, 2026 年 6 月実施の日商簿記検定試験 3 級の合格者には, 加点する。その場合は, 必ず合格証のコピーを提出すること。</p> <table border="0" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 35%;">A: 80%以上</td> <td style="width: 15%;">GPA</td> <td style="width: 35%;">4.00</td> </tr> <tr> <td>(評価)</td> <td>B: 70%~80%未満</td> <td></td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C: 60%~70%未満</td> <td></td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D: 50%~60%未満</td> <td></td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F: 50%未満</td> <td></td> <td>0.00</td> </tr> </table>			A: 80%以上	GPA	4.00	(評価)	B: 70%~80%未満		3.00		C: 60%~70%未満		2.00		D: 50%~60%未満		1.00		F: 50%未満		0.00
	A: 80%以上	GPA	4.00																		
(評価)	B: 70%~80%未満		3.00																		
	C: 60%~70%未満		2.00																		
	D: 50%~60%未満		1.00																		
	F: 50%未満		0.00																		
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>・初回の授業の際に, <u>評価方法などの詳細を説明するので, 必ず出席すること。</u>  ・授業では, 会計の初学者を念頭に置き, 会計の基礎を分かりやすく説明するように心掛けます。  ・電卓を毎回持参すること。講義レジュメはファイリングし, いつでも参照できるようにしてほしい。  ・会計の学習に際しては, 考えることと同時に, 覚える事柄も数多くあるので, 予習と復習をして授業に臨むこと。</p>																					
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>なし</p>																					
<p>授業スケジュール</p>																					
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス  内 容: 会計の「用語」と「数値」(金額)  教科書, 講義レジュメ</p>																				
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 簿記のルールを学ぶ  内 容: 簿記(複式簿記)と会計の関係  教科書, 講義レジュメ</p>																				
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 複式簿記と勘定記録  内 容: 会計文書上の貨幣的表現の意味内容の変化  教科書, 講義レジュメ</p>																				

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):簿記の仕組みと基礎概念①</p> <p>内 容:簿記の仕組みを学ぶ(1)</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):簿記の仕組みと基礎概念②</p> <p>内 容:簿記の仕組みを学ぶ(2)</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引①</p> <p>内 容:仕訳と取引を学ぶ(1)</p> <p>講義レジュメ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引②</p> <p>内 容:仕訳と取引を学ぶ(2)</p> <p>講義レジュメ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引③</p> <p>内 容:貸借対照表と損益計算書, 現金預金取引, 現金過不足勘定を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引④</p> <p>内 容:当座預金勘定と当座借越勘定, その他の預金を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑤</p> <p>内 容:小口現金, クレジット売掛金を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑥</p> <p>内 容:分記法と三分法を学ぶ(1)</p> <p>講義レジュメ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑦</p> <p>内 容:分記法と三分法を学ぶ(2)</p> <p>講義レジュメ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑧</p> <p>内 容:貸倒れと貸倒引当金を学ぶ(1)</p> <p>講義レジュメ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑨</p> <p>内 容:貸倒れと貸倒引当金を学ぶ(2)</p> <p>講義レジュメ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑩</p> <p>内 容:貸付金と借入金, 未収金と未払金, 前払金と前受金を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑪</p> <p>内 容:立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証金を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑫</p> <p>内 容:手形取引と手形記入帳を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>

第 18 回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑬</p> <p>内 容:電子記録債権・債務を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑭</p> <p>内 容:有価証券の取引,有形固定資産の取引を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑮</p> <p>内 容:株式会社の設立,株式の発行,繰越利益剰余金,配当を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):仕訳と取引⑯</p> <p>内 容:税金の処理を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):決算修正仕訳①</p> <p>内 容:費用の未払い,収益の未収,費用の前払い,収益の前受けを学ぶ(1)</p> <p>講義レジュメ</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):決算修正仕訳②</p> <p>内 容:費用の未払い,収益の未収,費用の前払い,収益の前受けを学ぶ(2)</p> <p>講義レジュメ</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):決算修正仕訳③</p> <p>内 容:消耗品費,貯蔵品の処理を学ぶ</p> <p>講義レジュメ</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):決算①</p> <p>内 容:決算手続きまでの簿記一巡の手続きを学ぶ(1)</p> <p>講義レジュメ</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):決算②</p> <p>内 容:決算手続きまでの簿記一巡の手続きを学ぶ(2)</p> <p>講義レジュメ</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):損益計算原理①</p> <p>内 容:維持すべき資本</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか):損益計算原理②</p> <p>内 容:企業観と損益計算</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか):損益計算原理③</p> <p>内 容:貨幣資本計算</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか):総復習</p> <p>内 容:講義内容の総括</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p>
試 験	筆記試験の実施